

千年の森便り No.183

2018.10.19

ちば千年の森をつくる会

<http://toyofusajima.html.xdomain.jp/>

代表 坂本文雄 編集 真鍋昌義

sennennomori@hotmail.co.jp

活動の記録

10月14日(日) 雨 秋のきのこ観察会

10月は公開行事のキノコ観察で例年盛り上がりです。今年は千葉県環境財団の助成を受けた環境学習会「野生キノコが支える森の生態」と同時開催となり、貸し切りバスが出せたので、これまで以上の参加者で大盛況でした。豊英島がきのこの宝庫との評判を聞き、一度は訪れてみたいと思っても公共交通機関の不便さゆえに参加を見送っていた人には朗報だったと思います。講師の吹春先生の人気に負うところも大ですから、何時もいつも感謝ばかりです。

当日は朝から雨模様で、現地集合の頃に上がるのを期待していましたが降りやまず、急遽、予定変更で清和県民の森施設の室内を借りて代表挨拶や講師紹介、島内での注意事項などを前倒しで行い、約30分の時間調整をしました。吹春先生は採集の時は兎も角、同定会の時だけは雨の無い明るい屋外でやりたいと願っていました。その願い通りに解説を聞く時には雨が上がっていましたので、結果的にますますの天気だったと思います。私自身はキノコと言うものは木の子であると同時に雨の子とも思っています。キノコ好きは秋風を感じたら、まとまった雨が何時降るか心待ちにしているもので、行事の時だけ雨を恨むのは修行不足の罰当たりと言われそうですから我慢の一手でした。

当日のキノコは期待通りの大豊作でした。シートの上は山盛り状態で、「まるで朝市だな」と軽い冗談で笑いを誘ってから、何時もの解説が始まりました。学術的な解説に加え美味しいきのこの話もありましたが、県の規制を遵守し、博物館の試料用、研究用以外の持ち出しは禁止としました。博物館用に持ち帰られたあの見事なコウタケの大株が生きた形の標本となって展示室を飾るのが楽しみです。その時は「採集地 君津市豊英」のネームプレートが付いているでしょう。

大きな行事を無事に終えて、安堵しています。裏方としてご尽力された会員の皆様お疲れ様、ありがとうございました。(坂本)



千年の森史上新記録の79名参加



きのこの山を前に吹春講師の熱弁に聴き入る

参加会員は；秋元、伊藤、鶴沢、栗山、久我夫妻、坂本、中田夫妻と5人の子供たち、成沢、福島、細谷、松田、真鍋、村野、山口の21名。バスでご参加の47名、現地直接参加の11名を加え総勢79名、千年の森創設以来の大盛況でした。

○バス参加コース

前述の通り千葉県環境財団の助成を受け、貸し切りバスを出しました。当会としては初の試みで、戸惑う事、反省点もありましたが、多方面からの利用がありました。雨によると思われるキャンセルも出たものの補助席利用で申し込んだ人で穴埋めできて一席だけ余りのほぼ満席で、遅れも無く運行できました。

吹春先生にも同乗して頂き、車中で事前レクチャーをして貰えるのもバス利用のメリットです。帰りの車中では数人を指名して感想などを聞いた所、皆さん講座の趣旨を良く理解して、食う食わない以外のキノコの役割を見直したようでした。先生も頷いてコメントを聞いていました。

バスは佐倉始発で私が世話役で乗車しましたが、経由地の千葉駅からは会員の乗車が無く乗車待ちの参加者の受付、案内誘導をどうするか思案していました。幸い、9月の活動日に参加した県庁の新人職員、色川さんが世話役を引き受けてくれました。彼は受付、集金ばかりでなく、トイレ休憩後の乗車人数の確認、降車後の忘れ物チェック等々細々と気を配ってくれました。遅ればせながら帰りの車中で紹介したところ、バス会社の添乗員だと思っていたとびっくりする声、こんな若者がいれば県庁も安泰だと囁く声が聞こえました。色川さんありがとうございました。(坂本)

○フィールドのきのご観察

多人数のため吹春先生コースに加えて坂本コース、中島コース、森健脚コース、松田コース、ベテラン組の自由コースに分かれて昼まで約2時間、雨の森できのご観察を楽しみました。

・吹春コース

10月に入ってキノコの豊作のニュースを聞くたびに今年の豊英島に期待していました。当日は朝からあいにくの雨、小降りになることを期待しながら豊英島へ。今回先生の案内がてら同行することに。参加者が多かったにも関わらず、意外に先生についていく方が少ないようでした。皆さん2回目以降の参加の方が多くなってきたことと思います。10名くらいのグループでの観察会、スタートして早々にキノコを発見、早々に先生のレクチャーが始まります。参加の方々は充実した内容に次の場所へ移動。キノコを見つけるたびに先生の説明があり参加者は大満足の様です。ホテイチク保護柵の中にはもしかしたらという期待もあり案内、裏切られることもなくコウタケ、それも1株2株でなくあちこちに。

思う存分写真撮ったり楽しんで、12時近くになり広場に戻ることにしました。後で柵の外を歩きましたがそこにもコウタケ。今年はコウタケの当たり年でした。(鶴沢)



・坂本コース

知り合いの参加者が、杖をついた人がいますよと耳打ちしてくれたので、平坦地だけゆっくり歩く楽ちんコース、横着コースと名付けて同行人集めの声掛けをしました。千年の森広場から祠山下までのコースでしたが、すぐにウラベニホテイシメジが見つかり歓声があがりました。キノコ採り初めての人も目が慣れると次々に見つけて取って来るので、私の手提げの買い物籠の底が一杯になりました。採集したキノコの上にホオノキの落ち葉を軽く敷き詰め二重底にしましたが、これも間も無く満杯、更に落ち葉を敷き詰めて三段重ねとしました。大切なキノコを壊さずに同定会場まで持ち帰る工夫です。

最後に皆に見せる為に取り残してあった大きなコウタケにびっくり！全員注目の中、一人がフラッシュを浴びながら神事の手つきで掘り上げてコースの終了となりました。(坂本)



・中島コース

私は*中島先生のグループに参加。千年の森南のコナラ林からスタートし、ホテイ岬方面に。最初に、真っ赤な実をつけたツチアケビを見て、ラン科の菌従属栄養植物で光合成を行う葉が無く、ナラタケやナラタケモドキと共生していること、すぐ近くのトサノクロムヨウランも葉が無く、ベニタケ属のきのこに栄養を依存している話。ウラベニホテイシメジ（裏ピンク色）と一番中毒の多いクサウラベニタケの見分け方。チチタケは傘や柄を裂くと乳白色の液体が出る。フウセンタケ（根元が膨らむ）とオニフウセンタケ（ニューギニアの森で見つかる）。雨の中を進みながら丁寧な説明が続く。ホウキタケとハナホウキタケ、ウチワタケ、ハナヒラニカワタケ、ミネシメジ、カキシメジ……。そしてホテイ岬ではキツネノエフデ、コテングダケモドキ（傘の模様が獣模様）、ハエトリシメジ（毒）、カイガラタケ、ホウライタケ、ウスタケ……。ホテイチク保護柵内では再びコウタケに出逢う、今度は超大型。コウタケ傘の裏は褐色で針が多数あり中央の鱗片は角状、濡れているので香りが少なく乾燥すると強く香る、また味も良いとのことのお話。試料バスケットにきのこが溢れ、先生の試料板に載せ両手に抱えて持ち帰り。沢山のきのこに出逢い、色々詳細な説明を聴き、大変勉強になりました。有難うございました。（細谷）



説明は試料を手に詳細に

参加者は熱心に耳を傾け

傘裏のヒダや針も注意深く観察

* 中島淳志さんは横浜市在住、菌類学を専攻され、「しっかり見分け観察を楽しむきのこ図鑑」の著者です。千葉菌会員。

○吹春講師の解説要旨

今回は、野生きのこを見分けること、きのこを通して森を見るということについてお話しします。

誰も教えてくれませんが、図鑑の並びはだいたい胞子の色が白から黒に向かって並んでいます。胞子の色は、傘の裏のヒダを見るとだいたい分かります。

ベニタケの仲間は、胞子の色が白です。外生菌根菌の主要グループで、シイ・カシ林はベニタケの仲間が優占しています。この仲間は名前がつかないものが多いです。ベニタケ属（ルスラ）は乳液が出ないのに対し、チチタケ属（ラクタリウス）は乳液が出ます。

クロハツ（傷つけると赤く変色しその後黒変、ヒダが粗い）

キチチタケの仲間（乳液が黄色）

ケシロハツモドキ（ヒダが密、辛い）

きのこは、食べられるものを、ひとつずつ真剣に食べながら覚えるのが一番です。また、覚えるためにはスケッチして、図鑑と見比べると良いです。

ヌメリガサ科では、サクラシメジが食べられるきのことして重要です。

キシメジ科は、胞子が白いことだけが共通の特徴です。代表的なものがバカマツタケ。

マツタケの仲間は、針葉樹に出るマツタケとマツタケモドキ、広葉樹に出るバカマツタケとニセマツタケの4種があります。このうち、マツタケモドキとニセ



サクラシメジ(中田)

マツタケは香りがありません。バカマツタケの学名は、トリコローマ・バカマツタケで、バカマツタケがそのまま学名になっています。

ミネシメジ（若い時は傘が緑、ヒダが粗く、石鹼臭がある、食べられることになっている）

ハエトリシメジ（毒、テングタケと同じうま味成分を持ちうま味が強い）

カキシメジ（毒、三大毒きのこのひとつ、マツタケと間違える）

チシオタケ（典型的なクヌギタケ属の形、傷をつけると赤い汁が出る）

テングタケの仲間には、ツボとツバがあるテングタケ型と、ツボがあるがツバがないツルタケ型があります。ツボは外被膜で、ツバは内被膜。また、イボの形状もテングタケを見分けるポイントの一つです。

カブラテングタケ（マレーシアで記載された、豊英島のシイ・カシ林が中国南部から東南アジアのシイ・カシ林と繋がっていることを示すとても貴重なきのこ）

タマゴタケ（国内のものは、信州から北海道のもの、西側のものとは異なっており、豊英島のもの（西側）は学名がついていないかもしれない）

イッポンシメジ科

クサウラベニタケ（毒、間違えて食べても死なないが、下痢、腹痛、頭痛で辛い）

ウラベニホテイシメジ（傘表面に絹上の繊維模様、斑点がある）

ハラタケ科

ウスキモリノカサ（ハラタケ属、マッシュルームと同じ属名でアガリクス）

モエギタケ科

ニガクリタケ（毒、苦い、胞子は紫色を帯びた黒褐色）

フウセンタケ科

胞子は鉄さび色、内被膜がクモの巣状、名前がつかないものが多いです。

オニフウセンタケ（ニューギニアのシイ・カシ林でも見つかっており、豊英島のシイ・カシ林が、ニューギニアの森にも繋がっていることを示す大事なきのこ）

イグチ科は、傘の裏が穴（管孔）になっています。見分けるには柄の模様が大切です。

アカヤマドリ（柄にリンペンがある、おいしい）

ヤマドリタケモドキ（柄全体に網目がある、日本の代表的ポルチーニ）

キヒダタケ（管孔ではなくヒダ）

イロガワリの仲間（切るとすぐに断面が青く変色、変化の早さに歓声が。）

イグチの仲間は食用になるものが多く、重点的に覚える必要があります。アカヤマドリとヤマドリタケモドキは、千葉県の2大食用イグチです。

その他のきのこ

コウタケ（尾根に出るきのこ、豊英島に昔の尾根の生態系が残っていることを示している）

ケロウジ（とても苦い、柄の根元の断面が青黒い、というのが実際にはよくわからず）

ウスタケ（モミの外生菌根菌）、ウスタケの仲間（名前がつかない）

ホウキタケの仲間（菌根菌、千葉では茹でこぼして食べている）

カノシタ（傘の裏が針状、加熱すると食感が良くなるらしい）（福島）



バカマツタケ



ミネシメジ



オニフウセンタケ(友塚)



アカヤマドリ(秋元)



コウタケ(坂本)

10月14日きのご目録

今年の秋の観察会は80名近い参加があり、狭い千年の森に人が溢れる観がありました。

夏の暑さと長雨が幸いして、70種を超えるきのこを観察することができました。観察したきのこのうち、圧巻だったのは、巨大なコウタケの固まりで、参加者の皆さんの中には、（これがキノコなの？）と大感激でした。そして、吹春先生のウイトに富んだ名解説に、皆さん感動してお帰りいただきました。

観察したキノコは次の通りです。

ミナミナミハタケ科 イタチナミハタケ

ヌメリガサ科 サクラシメジ・ヌメリガサ属種・アカヤマタケ属種

キシメジ科 ユキラッパタケ・ミネシメジ・フタイロシメジ・ハエトリシメジ・バカマツタケ・カキシメジ・モリノカシバタケ属種・シイタケ・ザラミノシメジ属種・ホウライタケ属種・ツエタケ属種・サクラタケ・チシオタケ・種名無種

ウラベニガサ科 ウラベニガサ

テングタケ科 テングタケ・カバイロツルタケ・タマゴタケ・シロタマゴテングタケ・コテングタケモドキ・ガンタケ・シロオニタケ・コシロオニタケ・カブラテングタケ・タマシロオニタケ

ハラタケ科 ウスキモリノカサ

ナヨタケ科 ミヤマザラミノヒトヨタケ

モエギタケ科 ニガクリタケ

フウセンタケ科 オニフウセンタケ・イロガワリフウセンタケ・フウセンタケ属種

イッポンシメジ科 クサウラベニタケ・ウラベニホテイシメジ・イッポンシメジ属種

ベニタケ科 クロハツ・ベニタケ属種・トビチャチタケ・ケシロハツモドキ・キチチタケ

イグチ科 キヒダタケ・ヤマドリタケモドキ・アメリカウラベニイロガワリ属種・アカヤマドリ・ウツロイイグチ・オニイグチ属種

アンズタケ科 トキイロラッパタケ

ホウキタケ科 ホウキタケ属種

ウスタケ科 ウスタケ・ウスタケ属種

カノシタ科 カノシタ

イボタケ科 ケロウジ・コウタケ

ニンギョウタケモドキ科 ヌメリアイタケ・コウモリタケ

サルノコシカケ科 カワラタケ・カイガラタケ・ツヤウチワタケモドキ・ヒイロタケ

ホコリタケ科 (旧) ヒメツチグリ属種・ホコリタケ属種・ノウタケ

スッポンタケ科 キツネノエフデ

シロキクラゲ科 ハナビラニカワタケ・クロハナビラニカワタケ

ノボリリュウタケ科 チャワンタケの仲間・ナガエノチャワンタケ カピタキノコ種名不明 以上（松田）

「きのこはスゴイ！！」

あの雨の中、どうなることかと思いましたが、こんな楽しい観察会なら雨も何のその！でした。

吹春先生のお話は本当に魅力的で、今まできのこは「食べられるか」「食べられないか」という観点でしか見ていなかったのが、「森はきのこなしでは生きていけない」「よいきのこが採れる森はよい森である」「食べなければ毒きのこもいやつ！えらい！！」とのお言葉に、きのこを観る目がすっかり変わりました。

千葉県は、高い山がないのに寸詰まり現象でモミの木が自生していたり、湖の中の島に、尾根で見られるコウタケがたくさん見られたり、興味深いところですね。

楽しい観察会、お世話をさせていただき、ありがとうございました。（四街道市 横山解子さん）

「千年の森秋のきのこ観察会はコウタケ祭り！」

おそらくは史上最多の80名近くが豊英島に上陸。チャーターした行きのバスの中では道中、講師の吹春先生がレクチャー。



「きのこを通して森を見る」をテーマに森の中でのきのこの働きやラン植物との関わりなどを説明いただきました。

「秋、きのこのシーズンになると遭難や食中毒のニュースが出て、きのこが悪者扱いされるが、人が食べようとするから起こることで、本当はきのこはよい奴・えらい奴！」ときのこLOVE全開でした。

さて、天気予報は外れてなかなか雨は降り止まず。でも、参加者一同、雨なんか気にしていません。きのこの観察会に初参加の方達もバスの中のレクチャーできのこへの興味が掻き立てられたようでした。

当日の目玉は何といってもコウタケ。私を含めて初めてみる人は形や大きさにびっくり。幸運にも私も自分で見つけることが出来て、写真を撮ったりして暫くこっそりと愛でていました（笑）。

宝探しをしていると時間の経つのもあっという間。オニフウセンタケの模様やウスタケが雨の雫を溜める姿・・・お昼はあとでいいから、もっときのこを探していたと思いましたが、行方不明者になってもいけません。仕方なく広場に戻りました。

戻るとツチアケビの周りに人だかり。レクチャーにありました。ツチアケビは美味しそうな根を伸ばし、木材腐朽菌のナラタケをだまし、根に入ってきたナラタケを逆に消化・吸収してしまうとか。ソーセージみたいな実をひとつ取って切って、中の様子も見せてもらいました。

お昼過ぎからは雨も上がり、同定会も無事開催。バカマツタケも出ましたが、やっぱり目を引いたのがコウタケの山。美味しいと思ったらコウタケが一番という声も多かったです。でも、ここ君津市は放射能で規制がかかる

場所。県の指導にしたがって調査・研究用を除いて持ち帰りはNG。さんざん、食べると美味しいと聞かされた参加者たちはちょっとお気の毒（笑）。因みに私は食べることには今のところあまり興味がありませんが、「コウタケを乾燥させたときの醤油の匂い」はちょっと嗅いでみたいと思いました。（佐倉市 友塚新樹さん）
(Facebook 公開ページ ちば里山_People より一部転載。画像を大幅にカットしているので、元の投稿もご覧ください。)



この日の目玉はコウタケ



オニフウセンタケ



雨水の雫を受けるウスタケ



ツチアケビの実

千年の森きのこ観察会に参加して

「雨だ・・・」と少しがっかりしながら現地へ向かいました。ところが、到着した県民の森ロビーは人で埋まり、参加者の熱気に包まれていて、直ぐにそんな気持ちは吹き飛んでしまいました。

千年の森でのきのこ探しは面白くて、そちこち歩き回りました。湿った落ち葉の間や、落ちた枝などから「ニョキニョキッ」ときのこ達が顔を出し、たくさん集めることができました。皆が持ち寄ったきのこが並び様子は圧巻で、あんなに多くのきのこを見たのは初めてで、とても素晴らしかったです。見た目も重さもズッシリなコウタケに、真っ白で美しいシロオニタケ、香りのよいバカマツタケ、名前からは想像できませんが、食べたら絶品！というハエトリシメジ（毒）等々。吹春先生の解説も楽しく、きのこがマレーシアやニューギニアとつながっている話は特に興味深かったです。

また、ツチアケビやトサノクロムヨウランなど菌従属栄養植物についての説明もあり、あっという間の楽しい1日となりました。関係者の皆様に心より感謝しております。（鴨川市 吉田明子さん）

きのこの魅力は深まるばかり

今回もまた佐倉から送迎バスで連れて行っていただけるというありがたさに加え、車中では同乗された吹春先生のきのこレクチャー付き、という贅沢な観察会となりました。きのこは何かに始まり、きのこの働き、菌類の大切さなど先生のお話は、きのこ万年初心者の私にも、とてもわかりやすく、楽しいものでした。豊かな森は菌類のお陰、きのこはエライ！だから、毒きのこを悪者呼ばわりするのは間違っている。人間の都合で決めてはいけない。毒があろうとなかろうときのこはエライのです。とは吹春先生の熱弁。いつもの先生の軽妙なお話に引き込まれているうち、バスは到着。朝から降っていた雨はなかなか止まず、空を恨めしく見上げたくなるのですが、いやいや雨はきのこにとって恵みの雨だから、きょうはとことんきのこの気持ちを尊重しようと言いつつ、豊英島へ。グループに分かれて早速きのこ探し。この地面の下にはどれほどの菌糸が伸びているのだろうか、などとレクチャーを思い出しながら、見えない世界にまで思いを馳せます。

午後、シートを広げる頃には雨も上がり、所せましと並べられたきのこは壮観でした。初めて見るコウタケの立派さには圧倒されましたし、本来尾根筋に出るきのこが豊英島にあるのは、ここがダム湖になる以前に山の尾根だったことを教えてくれている。また、カブラテングタケがマレーシアにも、オニフウセンタケがニューギニアにもそれぞれ同じものが見られる、ということは千葉県森がどこにつながっているかがわかる、という先生のお話には壮大な地球のドラマを感じて感動的でした。

今回もまた吹春先生や千年の森をつくる会の皆様の温かいご尽力で、素晴らしい観察会となりました。ありがとうございました。（船橋市 川島 千恵子さん）

有難うございました

畔田谷津の生命を見守る会では大変お世話になりありがとうございます。なかなか出席できずにいるのですが、坂本様より畔田の会でキンラン、ギンランときのこの関係をいろいろ御説明して頂いた事がきっかけで‘きのこ’への関心が高まりました。

そんな所、今回きのこ観察会に出席できた事本当に嬉しく思っております。現地に向かうまでの間、資料を頂いたり、すばらしい先生のお話まで企画して頂き本当にありがとうございました。当日は一般人には入ることの出来ない秘境に足を踏み入れる事が出来、自然の豊かさ、不思議さ、一体感を感じる事が出来ました。

そして沢山のきのこ達にも出会えました。皆で集めたきのこを前にした観察会は最高でした！坂本様いろいろお世話になりありがとうございました。（佐倉市 若園耕一・和子さん）

（坂本代表宛ての私信を差出人の了解の下、紙面に掲載しました）

〇雨の豊英島へ （佐倉市 寺村敬子さんに当日の写真提供いただいた中から抜粋）



豊英島へ吊橋渡る 20 名づつ



ホウキタケの仲間が出迎え



雨水を載せて



雨降りきのこは生き生き

○豊英島・秋の花や実



シラヤマギク(秋元)



コバノガズミ(栗山)



シャシャンボ(栗山)



アズキナシ(秋元)



ツチアケビ(栗山)

☛千年広場南のツチアケビ、9月に実34個つけていましたが、10月14日には24個に減っていました。周辺に落下の形跡がないので、鳥か動物に食べられたものと思われるので、9月に保護金網撤去の効果があったこととなります。(真鍋)

➡実の断面とその40倍拡大画像です。



実の断面図(栗山)



→→40倍拡大(栗山)

○おまけ

シイカシ萌芽林の尾根南側斜面中腹に結構大きな穴が開いていました。土をかき出したような跡もあり動物が掘ったものかもしれません。もしかしたらアナグマ? (福島)



お知らせ

○11月の活動日 11月18日(日) ホテイ岬地区の整備、危険木の伐採、島外農地の整備、植物、野鳥等の調査を行います。また、豊英島の自然Ⅱ(仮題)の内容検討を開始します。君津市清和自然休養村管理センター 直売所前 9時30分集合です。

○12月の活動日 12月9日(日) シカ個体数調査 巨木林成長量調査、危険木伐採などの島内整備、植物、野鳥等調査を行います。島は紅葉シーズンです。集合場所、時間は11月と同じです。